

「振り回されるIT」から

「武器として活用するIT」へ

2026

i SHARE

03

**特集①：3大AI（ChatGPT / Claude / Gemini）
あなたはどれを使ってる？**

**特集②：「やっといて」がAIに言える時代が来た！
Claudeの新機能「Cowork」とは？**

インフィニティ：新しいニュースレター「カフェで学ぶAI」始めました！

インプループ：タレントダイナミクス×AIで弱点を克服しよう！



エージェントAIを使いこなそう

さて、あっという間に新年度が始まりますね。寒い日が続いたせいか、春の訪れを感じないままに4月に入ろうとしています。最近の私は、必死でAIの情報を追っています。AIを使っているつもりでも、世の中の動きは本当に速い。2025年は「AIエージェント元年」と言われていましたが、今は「エージェントAI」が主流になりつつあります。

「AIエージェント」と「エージェントAI」。似た言葉ですが、実は同じ意味で使うと少しズレます。まず「AIエージェント」は、目的に向かって自律的に動く個別のAIです。たとえば、問い合わせに回答したり、情報を調べたり、社内システムに登録したりと、1つの役割を持って動く、担当者のような存在です。Google CloudやIBMなども、AIエージェントを「自律的にタスクを実行するソフトウェア」と説明しています。

一方で「エージェントAI」は、英語でいう agentic AI に近く、AIエージェントを複数組み合わせ、ツールやルール、人の確認も含めて成果を出す仕組み全体を指すことが多い言い方です。1人の優秀な担当者ではなく、複数の担当が連携するチームや組織に近いイメージです。たとえば、1体のAIが問い合わせに答えるなら「AIエージェント」。問い合わせ内容を分類し、必要な情報を探し、返答案を作り、最後に人が確認して送るところまで一連で回るなら、それは「エージェントAI」と考えると分かりやすいかもしれません。つまり、AIエージェントは「部品」、エージェントAIは『その部品を動かす全体設計』です。最近はこの違いが曖昧なまま紹介されることも多いのですが、導入を考えるときは「単体のAIが欲しいのか」「業務全体を回す仕組みが欲しいのか」を分けて考えることが重要です。

私は現在、

- OpenAI : ChatGPT
- Google : Gemini / NotebookLM / Antigravity
- Anthropic : Claude / Claude Code / Claude Cowork
- Genspark

上記を利用しています。

それぞれのツールには、得意なことや苦手なことがある。使い分けて利用することで、今までできなかったことが段々自動化されていっています。特にClaudeの進化はものすごいスピードで、情報を追うのが追いつかない状況になっています。以前AIを牽引していたのはOpenAIのChatGPTでしたが、AIエージェント／エージェントAIの考え方を強く推し進めているのが、AnthropicのClaudeです。プログラムを組むためのAIのイメージがありましたが、業務の自動化として使うと驚くほどの効果を発揮します。

文系の目線から、AIを自社で活用実践し、皆さんにわかりやすくお伝えできるように、日々情報収集と実践を続けていきたいと思っておりますので、AI活用に興味がでましたら、ぜひお声がけください。

4月からの新年度も何卒よろしくお願いいたします。

株式会社インフィニティ/インプループ
代表取締役社長 大畑祐貴

いまやビジネスの現場でも当たり前になってきたAIアシスタント。

「なんとなくChatGPTを使っている」「Claudeが良いと聞いたけど違いがよくわからない」
そんな声をよく耳にします。

今回は、世界の3大AIである ChatGPT（OpenAI）・Claude（Anthropic）・Gemini（Google）を
わかりやすく比較してみました。

結論から言うと、「どれが最強か」ではなく「どれを何に使うか」が大事です！

GAME CHANGE 2026

AIは「チャット」から「相棒」へ。



Start Your Selection

ChatGPT / Gemini / Claude

まずは3つのポイントから、どのAIが優位にあるのかを見ていきましょう。今回の比較では、
「ChatGPT：1勝」「Gemini：2勝」「Claude：2勝」となり、Claudeがやや優勢という結果になりました。



それでは、各AIを順番に特徴とメリット/デメリットを比較していきましょう。

ChatGPT（チャットGPT） — AI時代のOSを狙う絶対王者



作ったのは？ → アメリカのOpenAI社（週刊アクティブユーザー9億人突破）

どんなことが得意？

- 高度な推論（Thinkingモード）
複雑な論理パズルや数学、専門的なデータ分析において、時間をかけて「思考」、正確な答えを導き出す。
- マルチモーダル検索：「SearchGPT」機能が統合され、最新ニュースや商品情報を画像付きで比較・提案。
- 情報の蓄積と管理：過去に共有した資料や生成した画像を全デバイスでシームレスに再利用。

最近の動き（2025年後半～2026年3月）

2025年8月に待望のGPT-5が登場し、2026年3月初旬には最新のフラッグシップGPT-5.4がリリース。かつてのGPT-4o時代に比べて「ハルシネーション（もっともらしい嘘）」が劇的に減少し、特に「Thinking（思考）」モードの搭載により、プロレベルのコーディングや科学的推論が可能に。また、2026年3月中旬には無料版ユーザー向けに高速なGPT-5.4 miniが開放されました。

メリット

- 「万能エージェント」化：文章作成だけでなく、PC操作や動画制作まで1箇所ですべて完結。
- 圧倒的なエコシステム：「GPTs」や「Agenticワークフロー」により、特定の業務に特化させやすい。
- リアルタイム性：遅延のない高度な音声会話と、最新ウェブ情報の即時反映。
- 記憶力の大幅向上：最大100万トークンの文脈理解（本数冊分を一度に把握）が可能。

デメリット

- コスト二極化：月額20ドルのPlusに加え、最高性能を使える「Pro（月額200ドル）」が登場、格差拡大。
- 各AIとの競合：執筆の自然さではClaude 4系、Google連携ではGemini 3系と、強力なライバルが台頭。
- モデルの複雑化：「Instant（速さ）」「Thinking（深さ）」「Pro（最高性能）」、用途別の使い分けが必要。

こんな人・場面におすすめ

「数万行のコードを管理したい」「最新情報を踏まえた深い分析がしたい」というビジネス層。
もちろん、無料版で「とりあえず高性能なAIに触れてみたい」入門者にも、
以前より遥かに使いやすくなっています。

※2024年12月にリリースし注目された動画生成AI「Sora」ですが、残念ながら2026年3月にサービスを終了するというアナウンスが流れました。どうやら著作権の問題が大きな要因のようです。

Gemini（ジェミニ） — Googleエコシステムの核心、マルチメディアの魔術師



作ったのは？ → アメリカのGoogle社（Google DeepMind）

どんなことが得意？

- ・メディア生成の頂点：画像（Nano Banana）、4K動画（Veo）や音楽（Lyria）生成がアプリ内で完結。
- ・Google Workspaceとの同期：Gmail、Driveの内容を把握し、予定予約やMAP検索までシームレスに実行。
- ・超大容量の記憶：大容量資料、数時間動画、数万行コードを一度に読み込み、全体俯瞰した分析が可能。
- ・リアルタイムマルチモーダル：カメラで見せながら、人間と話すようにリアルタイムで相談・解決。

最近の動き（2025年～2026年3月）

2025年末のGemini 3.0の衝撃的なリリースを経て、2026年3月現在はGemini 3.1シリーズが主力です。特に「Agentic AI（自律型エージェント）」としての能力が強化されました。「来週の出張プランを立てて、関係者にメールし、資料をドライブにまとめておいて」といった、複数のアプリを跨ぐ複雑な指示を、ユーザーの代わりに自動で完結できるようになっています。

メリット

クリエイティブの統合：動画・音楽・画像を一つの場所で連携して生成・編集できる。
「忘れない」圧倒的コンテキスト：数ヶ月前のやり取りや、巨大なプロジェクトの全貌を常に把握。
Googleシステムの利便性：AndroidやChrome OSと深く統合、AIを「呼び出す」手間すら不要なレベル。
高速かつ賢い：最新のFlash 3.1モデルにより、高度な推論も一瞬でレスポンスが返る。

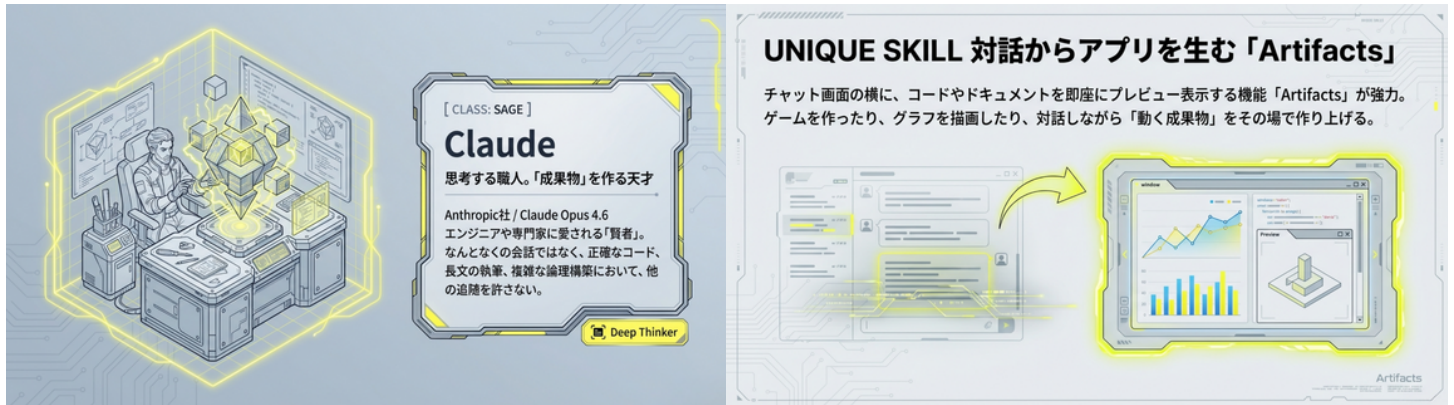
デメリット

依存度：最大限活用するにはデータをGoogleに預ける必要があり、プライバシー設定の管理が重要。
機能が多い：動画・音楽などメニューが多岐にわたり、初心者には最適な「モード」選びに迷うことも。
モデル間品質差：論理的推論を行う「Thinking」と高速な「Flash」で、出力の深さに明確な差がある。

こんな人・場面におすすめ

「Googleのツールで仕事を効率化したい」「動画や音楽を含めたクリエイティブ制作をしたい」
「膨大な資料を一気に読み解きたい」というプロフェッショナルに。
Androidユーザーなら、日常のあらゆる場面をサポートする「パーソナル・エージェント」として手放せない存在になります。

Claude（クロード） — 知性と倫理を兼ね備えた「熟考する」パートナー



作ったのは？ → アメリカのAnthropic（アンソロピック）（元OpenAIのメンバーが設立）

どんなことが得意？

- ・文脈の深い理解：AI特有の「不自然な言い回し」が少なく、ニュアンスを汲み取った高品質な執筆が得意。
- ・Artifacts：コード、グラフ、サイトのデザインをリアルタイムプレビューし、ブラッシュアップする。
- ・複雑な論理推論：複数の矛盾する条件を含む課題に対し、論理を組み立てて矛盾のない解決策を提示。
- ・高精度なコーディング：バグが極めて少なく、システム全体の設計図を理解した上でのプログラム生成。
- ・進化したPC操作：ブラウザ操作だけでなく、複雑なソフトウェアの操作を人間に代わって自律的に実行。

最近の動き（2025年後半～2026年3月）

2025年末にリリースされたClaude 4シリーズが、現在AI業界の「知性の基準」となってる。特に「Claude 4 Opus」は、クリエイティブな執筆や複雑な戦略立案において他を圧倒。また、2026年初頭には「Thinking Visualization（思考プロセスの可視化）」が強化され、AIがどう結論に至ったかのプロセスを透明化し、信頼性がさらに向上。

メリット

日本語の美しさと表現力：小説や脚本、エッセイなどの感性が求められる執筆で最高評価。
Artifactsによる開発：アプリのプロトタイプをその場で作り、修正しながら完成させる体験は唯一無二。
倫理観と安全性：攻撃的な内容や不適切な指示を、納得感のある理由と共に断る「憲法的AI」の完成度。
大容量コンテキスト：～100万トークンを、一貫性を保ったまま高精度に処理。

デメリット

ビジュアル生成機能の不在：画像、動画などの「ゼロから生成」は、他社ツールとの連携が必要。
保守的なガードレール：安全性を重視するあまり、創造的な「ギリギリ表現」が制限される場合がある。
シンプルさ：他社AIにある「盛りだくさん」はなく、あくまでテキストと知能の質で勝負する職人気質。

こんな人・場面におすすめ

「最高品質のビジネス文書を作りたい」「AIと一緒にコードを書き上げたい」
「人間と話しているような自然なやり取りがしたい」という方に最適。
感情的な機微を理解したフィードバックが欲しい、クリエイティブなビジネスリーダーの「参謀」として最も信頼されています。

特集①：3大AI（ChatGPT / Claude / Gemini） あなたはどれを使ってる？

Special Feature

改めて、皆さん、どのAIを利用していますか？以前ご紹介した「GenSpark」のようなAIエージェントを利用していますか？AIエージェントも裏側では、この3つのAIのどれかを利用しています。



重要なのは、どれかを選ぶのではなく、必要に応じて使い分けること。



AIを使い分けることで、1人の新人秘書でも、優秀なチームのように働けるようになります。AIエージェントのようなツールは、あなたの代わりに必要なAIを選定して、使い分けてくれています。自分で使い分けるのか、AIエージェントに依頼して使い分けるのか。いずれにしても、目的とゴールが分かっていると、優秀なAIチームを率いていくことはできません。

あなたがやりたいことの目的は？
ゴールは？わからない場合は、AIに「こんなことをやりたいと思うんだけど、目的とゴール、何をしなければいいの？、まとめてくれる？」と聞いてみましょう。AIが不足している情報をヒアリングして、まとめてくれます。あなたが勇者になって、目的を達成するために、AIをパーティに参加させて、それぞれのAIが得意なことを順番に任せていきましょう！

最強のパーティを組め。 AIは「選ぶ」時代から「使い分ける」時代へ。

まずは無料版で、3人のキャラクターに触れてみよう。
あなたの仕事という冒険が、劇的にイージーモードになるはずだ。

Game Start



「AIに仕事をお願いしたら、自分で終わらせてくれないかな…」

そんな夢のような話が、現実になってきました。

Claudeの新機能「Cowork（コーワーク）」は、簡単に言うと、「指示したら、あとはAIが自動でやってくれる」機能です。

これまでのAIは「聞いたことに答える」存在でした。
でもCoworkは違います。一緒に仕事をする「同僚」に近い存在です。

Coworkは何が新しいのか？

従来のAIチャットとCoworkの違いを、身近な例で考えてみましょう。

従来のAI（チャット型）

「先月の売上データをまとめて」
「まとめるにはデータが必要です。
ファイルをアップロードしてください」
(ファイルを添付)
「まとめました。次はどうしますか？」
「グラフも作って」
「グラフのデータを教えてください」
…（やり取りが続く）

AIへの**細かな指示出し**が、
最も**疲れる**仕事になっている

Cowork（エージェント型）

「先月の売上データをまとめて、グラフ付きのExcelを作っておいて」
「わかりました。完成したらお知らせします」
(コーヒーを飲んで一休み)
「完成しました！デスクトップに保存しています」

指示は**1回**。あとはおまかせ。

指示は1回、あとはAIにおまかせ！これがCoworkの本質です。

Coworkでできること

①ファイルを自動で整理してくれる

「ダウンロードフォルダがぐちゃぐちゃ…」というお悩みも解決。
「種類と日付で整理して」と伝えるだけで、数百個のファイルを自動で分類してくれます。
手動作業もドラッグ&ドロップも不要です。

②調べてまとめてレポートを作ってくれる

「〇〇について調べて、A4でまとめておいて」という指示でOK。
ウェブを検索して情報を集め、それを整理して読みやすいレポートにまとめるところまで自動でやってくれます。

③ExcelやWordを完成形で作ってくれる

「関数付きのExcel」「見やすいWord文書」など、実際に使えるファイルとして
アウトプットしてくれます。中身が空っぽのテンプレートではなく、
データや数式が入った「完成品」です。

④データ分析もおまかせ

売上データや顧客データを渡すと、外れ値を検出したり、
クロス集計を行ったり、時系列で傾向を分析したりしてくれます。
専門知識がなくても、「変なデータがないか確認して」と言えばOK。

⑤定期タスクのスケジュール設定

「毎週月曜日の朝に〇〇をやっておいて」という定期作業も設定できます。
ルーティン業務をAIに任せてしまうイメージです。

Focus

乱雑なファイルを自動で整理する

数百のファイルも手動作業なしで瞬時に分類し
最適な場所へ格納します。



Priority

そのまま使える完成品を生み出す

空のテンプレートではなく数式や情報が完全に埋
まった状態のファイルを出力します。



専門知識なしでデータを分析する

異常値の検出から傾向の把握まで複雑な
データ処理を自律的に行います。



Signal First



どうやって動いているの？（難しい話は抜きで！）

Coworkは、複雑な仕事を受け取ると、こんな風に動きます。

- ① 指示を受け取る
↓
- ② 「どう進めるか」の計画を立てる
↓
- ③ 必要なら仕事を細かく分割して、同時並行で進める
↓
- ④ パソコン内のファイルに直接アクセスして作業する
↓
- ⑤ 完成！ → ファイルとして保存 or お知らせ

途中で迷わない。
自分で考えて最後まで動く。

ポイントは「自分で考えて動く」こと。
途中でいちいち「次はどうしますか？」と
聞いてくる従来型とは違い、
最後まで自律的に進めてくれます。





使うために必要なこと

対応環境

- Windows または Mac のパソコン（スマホやブラウザからは利用不可）
- Claude Desktop アプリのインストールが必要

プラン

- 有料プラン限定
Pro・Max・Team・Enterpriseプラン
- 無料プランでは利用できません

その他

- 作業中はパソコンがオンラインである必要あり
- Claude Desktop アプリが起動している必要あり



注意点も正直にお伝えします

素晴らしい機能ですが、現時点ではいくつかの注意点もあります。

① まだ「研究プレビュー」段階

完全な製品版ではなく、テスト段階の機能です。
稀に予期しない動作をすることも。重要な業務では最終確認を怠らずに。

② 会話の記録はローカル保存

Coworkでやり取りした内容は、クラウドには保存されません。
パソコンの中にのみ保存されます（プライバシー面ではプラスとも言えます）。

③ セッションをまたいだ記憶はない

「先週頼んだあの件の続き」という使い方は苦手です。
毎回新しい指示をゼロから伝える必要があります。

④ 規制対象業務には注意

法律・医療・金融など、コンプライアンスが厳しい業務での利用は慎重に。



中小企業の経営者・担当者向けのおすすめ活用例

- ・ 会議の議事録整理 ⇒ 「この音声文字起こしから、議事録をWord形式で作って」
- ・ 競合調査 ⇒ 「〇〇業界の主要5社のサービスを調べて、比較表にまとめて」
- ・ 経費データ整理 ⇒ 「このExcelの経費データを月別・カテゴリ別に集計して」
- ・ メルマガ原稿 ⇒ 「先月の活動報告をもとに、顧客向けメルマガを作って」
- ・ ファイル整理 ⇒ Downloadフォルダを種類別に整理して新しいフォルダに振り分けて」

まとめ：AIは「答えてくれる存在」から「動いてくれる存在」へ

ChatGPTが登場してから、AIは「質問に答えてくれる便利ツール」として普及してきました。

でも今、AIは次のステージに進んでいます。
「答える」だけでなく、「動く」AIへ。

Coworkはその象徴的な機能です。
指示を出したら、
あとはコーヒーでも飲みながら待っていれば、
仕事が進んでいる。
そんな働き方が、少しずつ現実のものになってきています。

**機械の操作をやめ、
工場の管理者になろう**

もちろんまだ発展途上の部分もありますが、
「使いながら慣れる」というのが、AI時代のもっとも賢いアプローチです。

一度試してみると、その便利さを実感できるはずです。
きっと「これは便利だ！」と感じる瞬間がやってくるはずです。

Coworkを始めるには？

1. Claude Desktopアプリをダウンロード（Mac / Windows 対応）
2. 有料プラン（Proプランなど）に加入
3. アプリを起動して、Coworkモードを選択
4. やってほしい仕事を日本語で指示するだけ！

詳しくはClaude公式サポートページをご確認ください。

インフィニティ：新しいニュースレター「カフェで学ぶAI」始めました！

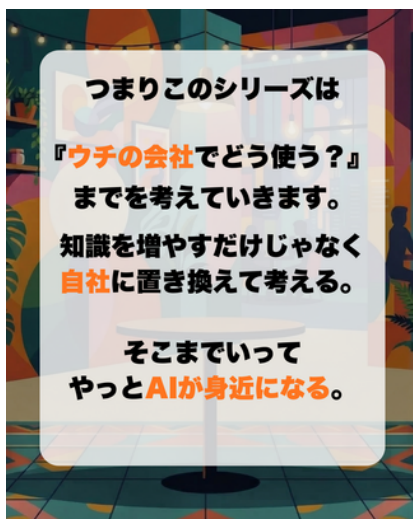
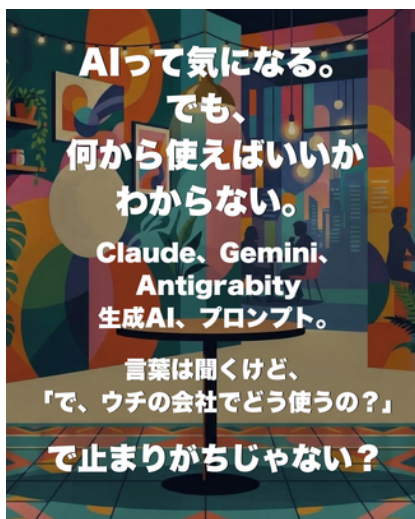
About INFINITY

AIが本当にすごいスピードで進化しています。おそらくパソコン業務はほとんど半自動化できるぐらいになっています。

もっと身近にAIを感じてもらいたくて、「カフェでAIを学ぶ」というシリーズを作ってみました！楽しみながらAIを身近に感じてもらえると思います。

このシリーズは、3人の経営者がリアルな経営の現場の目線で、AIに関するちょっとした疑問を話し合っていきます。

難しい技術の話じゃなくて、カフェで仲間と話す温度感。明日から何かやってみようって気持ちになってもらえると思います！



WEB
サイト



インスタ

毎日1回投稿（いつまで根気が続くか不安ですが）をしていきます。例えば、

- ・「ChatGPTどう使ってます？」って聞かれて、答えられなかった話
- ・「プロンプト、工夫したほうがいいですよ」と言われた話
- ・「AI入れたら見積が3倍速に」と聞いた。でもうちには無理？
- ・「AIに仕事を取られる」と怯えるパート社員に、何と伝えたい？

みたいな内容を投稿しています。

一緒にAIを身近に使いこなすために、1分で読める記事からどうぞ！

インプルーブ：タレントダイナミクス×AIで弱点を克服しよう！

About improve

こんな悩みありませんか？

「いいアイデアは浮かぶのに、実行まで進まない」

「自分の苦手な業務で手が止まってしまう」

「人に頼りたいけど、いつでも頼れるわけではない」

実はこれ、多くの経営者が抱えている共通の課題です。タレントダイナミクスでは、自分のタイプ（直感／体感／外向／内向）を理解し、強みと弱みを把握します。私（大畑）は直感型のクリエイターです。アイデア出しや新しいことへのチャレンジは得意ですが、継続したり仕組み化したりするのは正直苦手です。タレントダイナミクスの考え方では、強みは伸ばし、弱みは他者（他社）と組むことで補うことでレバレッジをかけていきます。ただ、現実はどうでしょうか？

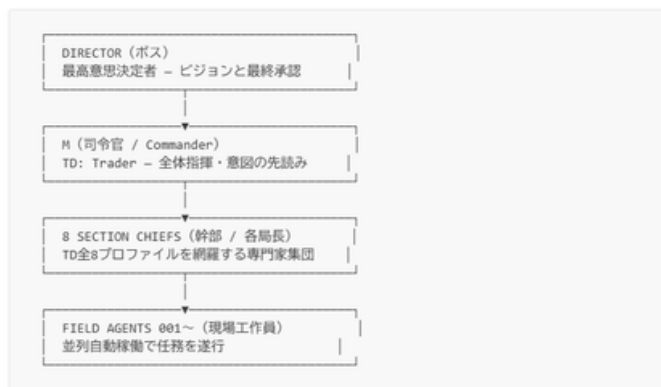
『すぐに頼れる人がいない』

『夜中や休日に思いついたアイデアを、その場で形にできない』

『すべてを人に頼るのは現実的ではない』

こういった場面は少なくありません。私自身も、経営の中でこの課題にずっと悩んできました。そしてたどり着いたのが、「AIを使う」という選択です。

組織体系 (HIERARCHY)



今、世の中では「AIを使った組織づくり」が現実になり始めています。AIに役割を持たせ、エージェントとして配置することで、指示を出すだけで業務を進めてくれる仕組みです。つまり、少人数でも、チームのように仕事を回すことができるようになります。

例えば、「調査をするAI」「資料を作るAI」「分析をするAI」といった役割を持たせることで、自分の弱みを補う「AIチーム」を作ることができます。実際に、資料作成やデータ整理といった業務は、すでにAIに任せられる段階にきています。

SECTION CHIEFS (8局長)

Section	Chief	TD Profile	管轄	役職	ミッション
Section 1	エジソン	Creator	10_Product	CPO	新規開発・改善・イノベーション
Section 2	ピカソ	Star	20_BRAND	CMO	ブランディング・プロモ・マーケティング
Section 3	テレサ	Supporter	30_HR	CHRO	採用・育成・組織文化
Section 4	シーザー	DealMaker	40_SALES	CRO	営業・交渉・契約
Section 5	マルコ	Trader	50_PROJECT	COO	運用・進捗・タイムライン管理
Section 6	ノア	Accumulator	60_FINANCE	CFO	財務・投資・P&L
Section 7	ドラッカー	Lord	70_STRATEGY	CSO	戦略・業務設計・KPI管理
Section 8	フォード	Mechanic	80_SYSTEM	CTO	エージェント設計・自動化・インフラ

OPERATION FLOW (作戦遂行フロー)



左が私が利用しているAIで会社を再現したイメージです。私がボスとして指示を出し、司令塔となる「秘書AI」が全体を管理します。秘書AIは、その内容に応じた、配下の幹部（8タイプのプロファイル）に仕事を振り分けます。各幹部はそれぞれ役割とミッションを持っており、必要に応じて専門のエージェントに指示を出し、業務を進めていきます。つまり、「誰がやるべきか」をAIが判断し、最適な形で仕事を進めてくれる仕組みです。さらに特徴的なのは、幹部同士が連携する点です。指示内容に応じて、それぞれの視点から意見を出し合い、アイデアをブラッシュアップした上で、最終的なアウトプットとしてまとめてくれます。1人で考えるのではなく、AIチームで考える。そんな働き方を実現できるのが、この仕組みです。

今回ご紹介しているClaude (Code / Cowork) や、GoogleのAntigravityといったツールを活用することで、こうした「AI組織」は現実的に構築可能です。人に頼れない時間でも、AIは動いてくれる。これが、これからの働き方の大きな変化です。AIを「ツール」として使うのではなく、「チーム」として活用する。そんな組織づくりに興味があれば、ぜひ一度ご相談ください。



Let's TRY

ちょっと役に立つWindowsの機能

Windowsには、あまり知られていない便利な機能がいくつもあります。特別なソフトを入れなくても、標準機能だけで作業効率を大きく上げることができます。今回はその中から、すぐに使える便利機能を2つご紹介します。

■「クリップボード履歴」機能

コピーした内容を1つしか貼り付けられないと思っていませんか？実はWindowsには、コピー履歴を複数保存できる便利な機能があります。一度有効にすると、過去にコピーした文章や画像を一覧で呼び出せるため、何度もコピーし直す手間がなくなります。メール作成や資料作成が一気に楽になります！

<使い方>

「Windowsキー + V」を押すだけで履歴が表示されます。

<設定方法（初回のみ）>

1. 「Windowsキー + V」を押す
2. 表示される画面で「有効にする」をクリック

■「仮想デスクトップ」機能

ウィンドウが増えすぎて、作業がごちゃごちゃしてしまう、そんなときに便利なのが「仮想デスクトップ」です。デスクトップを複数に分けて使えるため、「メール用」「作業用」「調べ物用」など、用途ごとに画面を整理できます。パソコン1台でも、複数の作業スペースを持つ感覚で使えます。

<使い方>

「Windowsキー + Ctrl + D」で新しいデスクトップを作成

<切り替え方法>

「Windowsキー + Ctrl + ← / →」で移動できます

Windowsの標準機能を少し活用するだけで、日々の作業効率は大きく変わります。「なんとなく不便」をそのままにせず、使える機能はどんどん取り入れていきましょう！

SNSのフォローも是非お願いします♪



X



instagram



Youtube

i SHARE 2026/03

あとがき - Editor's Note

日ごとに暖かさが増し、春の訪れを感じる季節となりました。3月は「変化」と「切り替え」のタイミング。ビジネスにおいても大きな節目の時期です。最近では「〇〇年問題」といった長期的課題が話題になりますが、実はこの時期に見直すべきは、もっと身近なIT環境かもしれません。年度の切り替えに伴い、人の入れ替わりや組織変更が発生し、アカウント管理や権限設定がそのままになっているケースも少なくありません。特に、退職者アカウントが残ったまま、不要な権限が放置されていたりすると、セキュリティリスクに繋がることもあります。日々の業務に追われていると後回しになりがちですが、この「区切り」のタイミングだからこそ、整理しておくことが重要。また、新年度に向けてパソコンやネットワークの環境を見直す企業様も増えていきます。快適な環境は生産性に直結するため、小さな違和感をそのままにせず、早めに対処しておくことで安心です。IT環境も一度リセット・整理して、気持ちよく新年度を迎えてみてはいかがでしょうか。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。編集：脇 真理子

発行元

株式会社インフィニティ
株式会社インプルーブ

代表取締役 大畑 祐貴

〒460-0002

愛知県名古屋市中区丸の内3-17-29
丸の内iaビル 7F

052-228-0417

support@infinity-i.co.jp

<https://www.infinity-i.co.jp>